

# 第3次 鳥羽市観光基本計画 前期アクションプログラム

令和8年3月 鳥羽市

## 第3次観光基本計画策定にあたって

本市は、伊勢志摩国立公園に位置し、豊かな海と美しい自然、そして海女文化をはじめとする先人から受け継がれてきた貴重な歴史・文化資源に恵まれた観光都市です。観光はこれまで、本市の基幹産業として地域経済を支えるとともに、市民の暮らしや地域の営みと深く結びつきながら発展してきました。

一方で、人口減少や少子高齢化の進行、観光ニーズの多様化、新型コロナウイルス感染症による社会環境の変化など、観光を取り巻く状況は大きな転換期を迎えています。加えて、近年は国際観光の回復とともに、海外から日本を訪れる旅行者が着実に増加しており、本市においても、国内観光に加え、インバウンド誘客を重要な柱として位置づけていく必要があります。



こうした中で求められているのは、単に来訪者数の増加を目指す観光ではなく、市民の暮らしや地域の価値を大切にしながら、旅行者と地域が良い関係を築いていく観光の在り方です。本計画は、国内外からの来訪者にとって魅力的であると同時に、市民一人ひとりが観光の意義を実感し、誇りを持って暮らし続けられる「市民と観光客が共存・共栄する観光まちづくり」を基本的な考え方として、今後10年間における本市の観光施策の方向性を示すものです。

特に、2033年に予定されている神宮式年遷宮は、伊勢志摩地域全体にとって、国内外へその魅力を発信する極めて重要な節目となります。本市においても、この好機を一過性の誘客に終わらせることなく、受入環境の充実や多言語対応をはじめとした情報発信の強化、地域資源を活かした滞在・周遊の促進など、将来を見据えた誘客の基礎固めを着実に進めていくことが重要であると考えています。

また、観光の効果が地域に持続的に還元され、市民の暮らしの質の向上につながることも、今後の観光施策において欠かせない視点です。本計画では、観光事業者や関係団体、市民の皆様との連携を一層深めながら、鳥羽ならではの魅力を磨き上げ、住む人にも訪れる人にも心地よい観光地づくりを進めてまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、多くの皆様から貴重なご意見をお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。本計画を着実に推進することで、次の世代へと誇れる鳥羽の観光をつないでいけるよう、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年3月 鳥羽市長 小竹 篤

## 目次

<b>第1章</b>	<b>はじめに</b>	3
1.	前期アクションプログラムの位置づけ	4
2.	第3次観光基本計画の概要	5
<b>第2章</b>	<b>前期アクションプログラムの目標</b>	<b>7</b>
1.	観光の動向をふまえた前期APの方向性	8
2.	基本方針	9
3.	成果指標	10
<b>第3章</b>	<b>戦略ならびにプロジェクト</b>	<b>11</b>
	第3次観光基本計画との関係	12
	戦略1:鳥羽らしい自然環境配慮型の観光の推進	13
	戦略2:鳥羽産食材の徹底的な流通、提供	17
	戦略3:滞在したくなる宿泊の魅力向上	21
	戦略4:多様な観光客を迎える体制づくり	25
	戦略5:快適な都市基盤・景観の整備	29
	戦略6:稼げてやりがいのある働きやすい鳥羽	33
	戦略7:戦略的な情報発信	37
	戦略8:観光財源の効果的な活用と推進体制の強化	41
<b>第4章</b>	<b>アクションプログラムの推進</b>	<b>46</b>
1.	アクションプログラムの推進体制	47
2.	アクションプログラムの実施・管理・評価の考え方	48

# 第1章 はじめに

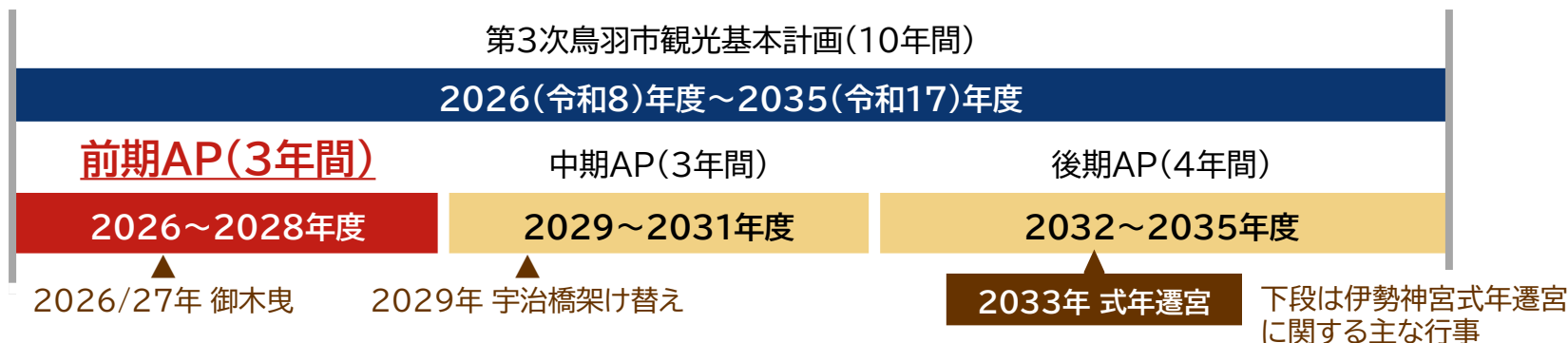
# 1. 前期アクションプログラムの位置づけ

2026年3月に策定した「第3次鳥羽市観光基本計画」(以下、「第3次観光基本計画」)を、社会情勢の変化などに対応しながら確実に推進するため、計画期間の10年間(2026～2035年度)を前期(3年間)・中期(3年間)・後期(4年間)の3つの期間に分け、それぞれの期間ごとに「アクションプログラム(AP)」を策定します。APは各期間に実施する具体的な施策を整理した実行計画であり、それぞれの取り組みの実施主体や実施時期などを定めます。

「第3次鳥羽市観光基本計画 前期アクションプログラム」(以下、「前期AP」)は、2026～2028年度の3年間を計画期間とします。

## 前期APの計画期間

2026(令和8)年度～2028(令和10)年度【3年間】



### (参考)前期AP計画期間中に予定される主な動き

	2026年度	2027年度	2028年度
鳥羽市／伊勢志摩エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 宿泊税導入</li> <li>● 伊勢志摩国立公園指定80周年</li> <li>● 伊勢神宮御木曳</li> <li>● 近鉄、レストラン列車「レ・サヴール・志摩」運行開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 伊勢神宮御木曳</li> </ul>	
中部・関西周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アジア大会・アジアパラ大会開催(愛知県)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワールドマスタースゲームズ2027 関西 開催(関西各地)</li> <li>● 中部国際空港 2本目の滑走路完成予定(愛知県)</li> </ul>	
外部環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「第5次観光立国推進基本計画」開始</li> <li>● 免税制度改正</li> <li>● 出国税引き上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「技能実習制度」から「育成就労制度」への移行</li> <li>● 「ふるさと住民登録制度」創設(予定)</li> <li>● 労働基準法改正(※27年度以降改正見込)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 化石燃料賦課金開始(予定)</li> </ul>

## 2. 第3次観光基本計画の概要

鳥羽市では、2015年3月に「第2次鳥羽市観光基本計画」(以下、「第2次観光基本計画」)を策定し、『国際的な滞在拠点を目指した「鳥羽うみ文化の継承と創造」』を目標像とした観光振興に取り組んできましたが、第2次観光基本計画が2025年度で満了を迎えることから、新たに2026～2035年度を計画期間とする「第3次観光基本計画」を策定しました。

第3次観光基本計画では、鳥羽観光の目指すべき目標像を『「鳥羽うみ」と共に生きる観光まちづくり ～ The Blessed Sea ～』と定め、鳥羽市の観光が将来進むべき方向性を示しています。

### 鳥羽観光の目指すべき目標像

「鳥羽うみ」と共に生きる観光まちづくり  
～ *The Blessed Sea* ～

### 基本方針

「鳥羽うみ」の恵みをエリア、時間、分野を超えて  
循環させることで、誰もが幸せになる

観光客がめぐる

関係人口がめぐる

食、生業がめぐる

経済がめぐる

従事者がめぐる

市民がめぐる

環境がめぐる

### 第3次観光基本計画の計画期間

2026(令和8)年度～2035(令和17)年度 【10年間】

## 2. 第3次観光基本計画の概要

第3次観光基本計画では、以下の通り8つの基本戦略を定め、それぞれの基本戦略毎に主要施策を位置付けています。

基本戦略	主要施策	
基本戦略1 鳥羽らしい自然環境配慮型の観光の推進	1-1 伊勢志摩国立公園の保全と活用	1-3 鳥羽ならではの海洋環境をテーマとした旅行やMICEの推進
	1-2 鳥羽うみを守りながら楽しむ体験コンテンツの充実	1-4 環境負荷の少ない観光産業の実現
基本戦略2 鳥羽産食材の徹底的な流通、提供	2-1 漁観連携のさらなる発展	2-3 海女・漁業者の担い手育成
	2-2 鳥羽うみの豊かな食材の流通促進	2-4 海洋環境、水産資源の保護
基本戦略3 滞在したくなる宿泊の魅力向上	3-1 泊まりたくなる魅力づくり	3-3 長期滞在につながる広域連携
	3-2 伊勢志摩の滞在拠点としての宿泊の魅力向上	3-4 長期滞在から移住定住につながる受け入れ態勢整備
基本戦略4 多様な観光客を迎える体制づくり	4-1 外国人観光客の受入体制・環境の整備	4-3 アクセシブルツーリズムの推進による優しい観光地づくり
	4-2 多様な来訪者のハード、ソフト両面での受け入れ体制強化	
基本戦略5 快適な都市基盤・景観の整備	5-1 鳥羽の玄関口としての鳥羽駅周辺の整備	5-3 漁村集落の景観や沿道・沿線景観の整備
	5-2 使いやすくわかりやすい二次交通による回遊性の向上	5-4 災害に強い安全・安心なまちづくり
基本戦略6 稼げてやりがいのある働きやすい鳥羽	6-1 働きやすい就労環境の創出	6-3 稼げる観光産業に向けた生産性向上と成長支援
	6-2 働きたいと思える魅力的な雇用の創出	
基本戦略7 戦略的な情報発信	7-1 来訪者向けプロモーション(BtoC)	7-3 市民向けのインナープロモーション
	7-2 重点マーケットを意識した戦略的な誘致(BtoB)	
基本戦略8 観光財源の効果的な活用と推進体制の強化	8-1 市民と観光客が共存・共栄する観光まちづくり充実・強化	8-3 観光まちづくりを担う観光関連団体(登録DMO等)、振興団体の組織強化、官民連携の強化
	8-2 観光財源の効果的な活用	

## 第2章 前期アクションプログラムの目標

# 1. 観光の動向をふまえた前期APの方向性

## 近年の鳥羽市の観光の動向

- 2026年4月より宿泊税を導入
- 鳥羽市を訪れる観光客数は長期的には漸減傾向
- 観光消費額は増加傾向
- 外国人宿泊者数は人数、割合ともに近年は増加傾向
- 総人口はピークの1960年から約4割減少

## 第2次観光基本計画の評価

- 宿泊産業の活性化／「鳥羽うみ文化」の創出・具現化／漁業と観光の連携などは比較的评价が高かった
- 一方で、賑わい創出・景観整備／推進体制の構築は比較的评价が低い結果となった
- コロナ禍を挟んだこともあり、目標値を達成できたのは観光消費額1項目にとどまった

## 現状と課題

- 鳥羽駅周辺の再整備、中心市街地の賑わい創出、回遊性創出
- 二次交通の充実・利便性向上
- 豊富な観光資源を活用した魅力ある観光地づくり
- 施設リニューアルと生産性向上
- 漁業と観光のさらなる連携
- 人材不足・後継者不足等への対応
- 横のつながりのある推進体制づくり
- 安定的な財源確保
- DX推進
- 来訪者の減少・短い滞在時間
- インバウンドなど多様な観光客の受け入れ、来訪者への適切な情報提供

## 前期アクションプログラム(2026-2028年度)のポイント

- 宿泊税が新規導入され、複数の観光財源を効果的に活用するガバナンスの構築が急務
- 観光財源を活用した観光地経営の核となる組織であるDMOの機能強化が急務
- 漁観連携計画改訂版が始動。水産加工処理施設を稼働・活用し、域内の経済循環を促す核とする
- 人手不足に早急に対応すべく、時代に即したイノベーションと、連携強化により魅力と活気ある産業へ
- 伊勢神宮式年遷宮(2033年)に向けて御木曳などの関連行事が2026年から本格的に開始。一過性の単なるイベントではなく、遷宮を契機に、より魅力的な観光地となれるよう早めに準備を行う必要性
- 国内観光客の需要が伸び悩む中、インバウンドの受け入れは必要不可欠
- ワールドスタンダードを意識しつつ、鳥羽うみの海洋環境の変化に対応した環境対策
- 人口減少社会を迎え既存ストックの更新や活用が課題となる一方で、鳥羽駅周辺エリアの再生に向けた動きもあり、地域の意思が問われる期間に鳥羽のコアコンピタンス(代替のきかない価値)を共有し、守るべきものと変えるべきものを認識

## 2. 基本方針

第3次観光基本計画で定めた目標像ならびに基本方針をふまえ、目標像実現のために前期APの計画期間中に特に重点的に取り組むべき内容を、以下の通り前期APの方針として定めます。

### 第3次観光基本計画

目標像

「鳥羽うみ」と共に生きる観光まちづくり ～ The Blessed Sea ～

基本方針

「鳥羽うみ」の恵みをエリア、時間、分野を超えて循環させることで、誰もが幸せになる



### 前期アクションプログラム(2026-2028年度)の方針

- 鳥羽の魅力の根源となる環境を未来へ継承するための取り組みの推進
- 鳥羽産食材の域内流通、市内の経済循環の促進
- 魅力的で付加価値の高い観光資源、食、体験の提供
- 働きやすく暮らしやすい環境づくりによる観光の恩恵の市民への還元
- 持続可能な観光まちづくりを推進する体制の構築

# 3. 成果指標

## ● 成果指標モニタリングの考え方

第3次観光基本計画では、目標像実現に向けた達成度を測るため、成果指標を設定し、数値目標を定めています。前期APの最終年度において、達成状況を測るためモニタリングを行います。

指標		現状値	第3次観光基本計画 目標値	備考	
全体	経済波及効果 (域内調達率)	鳥羽市観光経済波及効果調査	891億円 (H29年度)	1,250億円 (R12年度)	R9～11(2～4年目)、R16 (9年目)に実施予定
地域・市民	観光に対する関心度	鳥羽市民アンケート(新規)	—	初回調査実施後に設定	「非常に関心がある」、「関心がある」の割合
	観光に対する推奨度	鳥羽市民アンケート(新規)	—	初回調査実施後に設定	
	観光の重要度	鳥羽市民アンケート	14.5% (R6年度)	25% (R12年度)	
	定住意向	鳥羽市民アンケート	70.2% (R6年度)	80% (R12年度)	
観光客	来訪者満足度	鳥羽市観光案内所アンケート(新規)	—	初回調査実施後に設定	「非常に満足」、「満足」の割合
	再来訪率(リピート率)	鳥羽市観光案内所アンケート(新規)	—	初回調査実施後に設定	「2回以上」の割合
	観光に対する推奨度	鳥羽市観光案内所アンケート(新規)	—	初回調査実施後に設定	
	観光消費額	鳥羽市観光統計調査	82,721,334千円 (R6年)	107,500,000千円 (R12年)	
産業・経済	従業員満足度	市内事業所アンケート(新規)	—	初回調査実施後に設定	
	外国人労働者定着率	市内事業所アンケート(新規)	—	初回調査実施後に設定	
環境	温室効果ガスの削減	鳥羽市ゼロカーボンシティ推進計画	153千t-CO <sub>2</sub> (R2年度)	144千t-Co2 (R12年度)	

## 第3章 戦略ならびにプロジェクト

前期APでは、第3次観光基本計画の基本戦略を踏襲し、8つの戦略を定めます。そして、戦略ごとに、計画期間3年間で実施するプロジェクトを位置付けます。

第3次観光基本計画			前期AP		
	基本戦略	主要施策		戦略	プロジェクト
基本戦略1	鳥羽らしい自然環境配慮型の観光の推進	主要施策 1-1~1-4	⇒	戦略1 鳥羽らしい自然環境配慮型の観光の推進	PJ1-1~1-5
基本戦略2	鳥羽産食材の徹底的な流通、提供	主要施策 2-1~2-4	⇒	戦略2 鳥羽産食材の徹底的な流通、提供	PJ2-1~2-6
基本戦略3	滞在したくなる宿泊の魅力向上	主要施策 3-1~3-4	⇒	戦略3 滞在したくなる宿泊の魅力向上	PJ3-1~3-5
基本戦略4	多様な観光客を迎える体制づくり	主要施策 4-3~4-3	⇒	戦略4 多様な観光客を迎える体制づくり	PJ4-1~4-5
基本戦略5	快適な都市基盤・景観の整備	主要施策 5-1~5-4	⇒	戦略5 快適な都市基盤・景観の整備	PJ5-1~5-6
基本戦略6	稼げてやりがいのある働きやすい鳥羽	主要施策 6-1~6-3	⇒	戦略6 稼げてやりがいのある働きやすい鳥羽	PJ6-1~6-4
基本戦略7	戦略的な情報発信	主要施策 7-1~7-3	⇒	戦略7 戦略的な情報発信	PJ7-1~7-5
基本戦略8	観光財源の効果的な活用と推進体制の強化	主要施策 8-1~8-3	⇒	戦略8 観光財源の効果的な活用と推進体制の強化	PJ8-1~8-5

## 戦略1

## 鳥羽らしい自然環境配慮型の観光の推進



### 【第3次観光基本計画における基本戦略1の考え方】

「鳥羽らしさ」の核となる「鳥羽うみ文化」とは、大小さまざまな島々や内海と外洋が交じり合うことで創出される独特の海そのものと、海を通じて生まれた歴史、生活文化、漁業文化などの総体です。これらは先人たちが守り育ててきたかけがえないものであり、恵みを享受しながらも次世代に残せるよう保全をしていくことは、鳥羽の観光を推進していく上での大前提になります。また、鳥羽の海洋環境を深く理解するには、単なる自然科学的な側面だけでなく、伊勢神宮に代表される神話や歴史、そして地域に根付いた文化と一体として捉え、その価値を表現し、提供していくことが重要です。

また、2026年には伊勢志摩国立公園指定80周年を迎えます。こうした節目に、改めて歴史を紐解くと共に、国立公園の中で生活しているという認識のもと、観光客のみならず市民の参加も促進し、豊かな自然・文化に市民が誇りを持てるようにしていくことも重要です。

気候変動への対応は広域かつ中長期的な対応が必要であることから、本戦略では、海洋ごみ対策や水産資源の保護など短期的にできる環境保護のための取り組みの推進を図ります。また、伊勢志摩国立公園指定80周年を契機とした取り組みの推進をはじめ、鳥羽を訪れる多くの観光客が求める「鳥羽うみ」によってもたらされた豊かな自然、歴史文化を最大限に尊重し、活用した観光の推進を図ります。

第3次観光基本計画	
主要施策	
主要施策1-1	伊勢志摩国立公園の保全と活用
主要施策1-2	鳥羽うみを守りながら楽しむ体験コンテンツの充実
主要施策1-3	鳥羽ならではの海洋環境をテーマとした旅行やMICEの推進
主要施策1-4	環境負荷の少ない観光産業の実現

前期AP	
プロジェクト	
⇒	プロジェクト1-1 鳥羽うみを未来に引き継ぐ海洋環境の保護
	プロジェクト1-2 伊勢志摩国立公園の保全と活用
⇒	プロジェクト1-3 鳥羽うみについて学び楽しむコンテンツ、アクティビティの充実
⇒	プロジェクト1-4 海洋環境を活かした教育旅行、島旅、MICEの推進
⇒	プロジェクト1-5 環境負荷の少ない宿泊施設、観光施設づくり

# 戦略1:鳥羽らしい自然環境配慮型の観光の推進

## プロジェクト1-1 鳥羽うみを未来に引き継ぐ海洋環境の保護

「鳥羽うみ」は「鳥羽らしさ」の核であり、多くの観光客が鳥羽うみによってもたらされる豊かな食や自然を求めて鳥羽を訪れます。この鳥羽うみを将来に引き継ぐための取り組みが重要となりますが、気候変動への対応などにおいては、国レベルなど広域かつ中長期的な取り組みが求められることから、前期APの計画期間中には海洋ごみ対策や水産資源の保護を図るとともに、環境に関する市民への周知、情報発信に取り組みます。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 海洋ごみの発生抑制など対策の推進
  - 藻場の再生、水産資源の保護
  - 環境に関する市民への周知、郷土学習
  - EV車充電設備の設置
- など

## プロジェクト1-2 伊勢志摩国立公園の保全と活用

風光明媚なリアス海岸が形成される鳥羽市は全域が伊勢志摩国立公園の指定を受けています。鳥羽市民の暮らしとともにある伊勢志摩国立公園の環境を保全するだけでなく、豊かな自然環境をコンテンツとして活用する観光を推進します。

また、伊勢志摩国立公園は2026年に指定80周年を迎えることから、これを契機とした記念事業などの取り組みを推進します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 伊勢志摩国立公園80周年を契機とした取り組みの推進
  - 自然公園内の施設等の維持管理
  - 伊勢志摩国立公園に関する市内外への情報発信
  - エコツーリズムの普及啓発
- など

## プロジェクト1-3 鳥羽うみについて学び楽しむコンテンツ、アクティビティの充実

「鳥羽うみ」を観光資源として最大限に活用し、自然体験コンテンツやアクティビティの開発、普及、高付加価値化を推進します。また、単に自然環境だけでなく伊勢神宮や九鬼水軍など地域に根付いた歴史文化、鳥羽うみとともに暮らす鳥羽市民の生活や生業を尊重し、継承するとともに、その価値を表現し、提供していくことが重要です。

そのためにも、コンテンツを提供する担い手や地域の歴史文化を伝えるガイド等の確保や育成・支援を図ります。また、ツアー実施時等にガイドや事業者が地元配慮すべきポイントをまとめ、啓発していきます。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 鳥羽うみを感じられる海水浴場などの空間整備、維持管理
  - 自然を活用したアクティビティの開発、高付加価値化
  - 自然観察会や海女ガイドなど自然体験コンテンツの造成
  - コンテンツ提供の担い手となる団体やコーディネーター、ガイドの育成支援
  - ツアー・アクティビティ実施時の事業者ガイドライン作成
  - 日本遺産の普及啓発
- など

# 戦略1:鳥羽らしい自然環境配慮型の観光の推進

## プロジェクト1-4 海洋環境を活かした教育旅行、島旅、MICEの推進

鳥羽ならではの海洋環境を活かし、多様な教育旅行の誘致、受け入れ強化を図ります。また、教育プログラムの構築や大学・研究機関等との連携などを通じて、市内外へ鳥羽うみを積極的に発信し、鳥羽うみへの理解の向上及び自然環境の保護につながる取り組みを推進します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

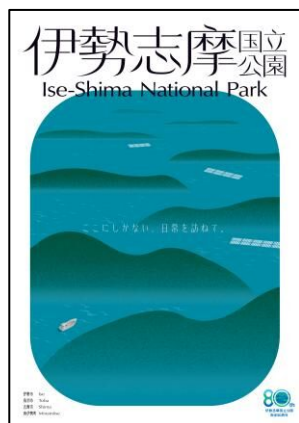
- 教育旅行、学生団体の誘致
  - 鳥羽らしい海洋環境を活かした教育プログラムの構築
  - 海洋に関する調査研究のための大学、研究機関との連携
  - 離島の振興と島旅の魅力発信
  - 鳥羽うみライブラリーの浸透、活用
- など

## プロジェクト1-5 環境負荷の少ない宿泊施設、観光施設づくり

世界的にも環境に対する意識が高まっており、環境に配慮した取り組みができているかどうか滞在先を選ぶ大きな要素となりつつあります。観光業界を挙げて、環境負荷の少ない宿泊施設、観光施設づくりに取り組みます。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

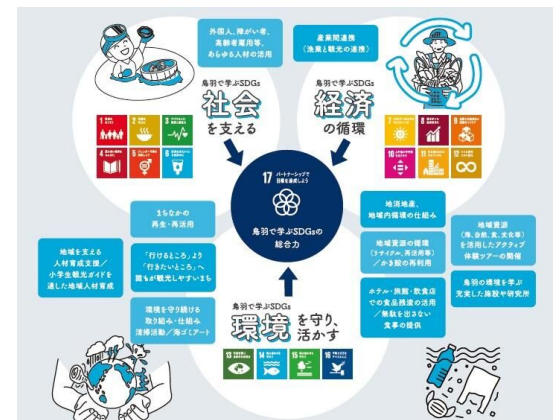
- 宿泊施設、観光施設でのプラスチック製品等の削減
  - 宿泊施設、飲食店でのフードロス・フードウェイスト対策
  - 宿泊施設でのCO2排出削減
  - 環境保護、水産資源保護支援宿泊プランの販売
  - 環境負荷低減に取り組む宿泊施設、観光施設の認証制度の検討
- など



伊勢志摩国立公園指定80周年  
記念パンフレット  
<https://www.ise-shima.or.jp/ise-shima80th/>



浮島自然水族館  
<https://www.shima-tabi.net/experience.html>



鳥羽でSDGsを学ぶ  
<https://www.toba.gr.jp/feature/sdgs/>

## ● 実施時期と実施主体

プロジェクト	実施時期			実施主体																				
	26年度	27年度	28年度	鳥羽市	DMO観光協会	商工会議所	旅館組合	温泉振興会	漁観連携促進協議会	エコツーリズム推進協議会	広告宣伝戦略委員会	島の旅社	ツアーセンター	パラアプリー	相差DMO	伊勢志摩観光コンベンション機構	漁業協同組合	農業協同組合	民間事業者	交通事業者	大学・研究機関	国・県	市民	その他
PJ 1-1 鳥羽うみを未来に引き継ぐ海洋環境の保護	■	■	■	観光商工環境	○	○	○	○	○	○		○					○	○	○		○	○	○	
PJ 1-2 伊勢志摩国立公園の保全と活用	■	■	■	観光商工企画財政環境	○	○				○		○							○		○	○		伊勢志摩国立公園協会
PJ 1-3 鳥羽うみについて学び楽しむコンテンツの充実	■	■	■	観光商工企画財政環境生涯学習	○	○	○			○		○				○			○		○		○	
PJ 1-4 海洋環境を活かした教育旅行、島旅、MICEの推進	■	■	■	観光商工環境定期船生涯学習	○	○	○			○		○				○			○		○	○		
PJ 1-5 環境負荷の少ない宿泊施設、観光施設づくり	■	■	■	観光商工環境	○	○	○	○											○					

## 戦略2

## 鳥羽産食材の徹底的な流通、提供



<https://torosawara.com/>

### 【第3次観光基本計画における基本戦略2の考え方】

鳥羽には、鳥羽の豊かな海で獲れる魚介類をはじめとする鳥羽の食を求めて多くの観光客が訪れます。観光客が期待する鳥羽産食材をより確実に提供できるよう、流通と提供について強化します。漁師や海女をはじめとした「漁業の進展なくして観光業の進展なし」と言われるように、双方が安定的に発展する仕組みを構築します。その中核となるのが、2015年から実施している漁観連携の取り組みです。一定の成果は見られるものの、現状の課題をふまえて取り組みを強化することで、力強く地域経済を牽引していきます。また、それらの基盤である海洋環境と水産資源の保護も引き続き最優先課題として推進し、独自の魅力を持つ国際的な滞在拠点としての地位確立を目指します。

本戦略では、鳥羽の基幹産業である漁業と観光の連携を深化させ、地域経済の持続的な発展を目指します。特に令和7年度に改訂した「漁業と観光の連携促進計画」を軸に、水産加工処理施設の整備を通じた地産地消の最大化と省力化を推進します。「答志島トロさわら」に続く新ブランドの確立や未利用魚の製品化により、漁獲量減少下でも高付加価値化による漁業者所得の向上を図ります。また、ふるさと納税やサテライト店舗を活用した販路開拓、海女文化の継承と担い手育成、さらには国を挙げて推進している漁業のDX化や資源管理の厳格化、育成就労制度の運用等を見据えた取り組みを行いつつ、観光との掛け合わせを効果的に実施することで豊かな海と伝統を守り、鳥羽ブランドの競争力を次世代へ繋いでいきます。

### 第3次観光基本計画

#### 主要施策

主要施策2-1 漁観連携のさらなる発展

主要施策2-2 鳥羽うみの豊かな食材の流通促進

主要施策2-3 海女・漁業者の担い手育成

主要施策2-4 海洋環境、水産資源の保護

### 前期AP

#### プロジェクト

- ⇒ プロジェクト2-1 漁観連携のさらなる発展
- ⇒ プロジェクト2-2 水産加工処理施設の整備、活用
- ⇒ プロジェクト2-3 新たな鳥羽ざかなのブランド化と付加価値向上
- ⇒ プロジェクト2-4 鳥羽産食材の販路開拓、流通促進
- ⇒ プロジェクト2-5 海女・漁業者の支援と担い手の育成
- ⇒ プロジェクト2-6 海洋環境、水産資源の保護のための研究と実践

## 戦略2:鳥羽産食材の徹底的な流通、提供

### プロジェクト2-1 漁観連携のさらなる発展

令和7年度(2025年度)に改訂された「漁業と観光の連携促進計画」では、水産加工処理施設を軸とした域内消費の向上や、未利用魚の活用・ブランド化による高付加価値化、磯焼け対策や藻場の再生といった環境保全等を柱に据えています。漁業・観光・行政の繋がりを強固にし、10年後を見据えた所得向上や担い手育成、鳥羽ブランドの確立を目指すためにも、まずは鳥羽市内の幅広い関係者にわかりやすく周知します。

#### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 「漁業と観光の連携促進計画(改訂版)」の周知
- 密猟対策の強化
- 漁業観光連携プロジェクトコンペの実施

など

### プロジェクト2-2 水産加工処理施設の整備、活用

小浜水産加工処理施設の新設によって、市内飲食店や宿泊施設へ鳥羽産水産物をスムーズに供給するハブ機能を構築し、提供側の仕込み作業の省力化と地産地消の最大化を目指します。対象はブランド魚「答志島トロさわら」の品質維持のみならず、これまで市場に出回らなかった未利用魚も加工品として製品化し、新たな価値を創出します。最初のステップとして、まずは市内宿泊施設や飲食店が求める具体的な加工形態(フィレや切り身等)やニーズの実態調査に着手し、現場の利便性に直結する製品ラインナップの要件定義を行います。これにより、漁獲量減少下でも付加価値向上を通じて漁業者の所得向上と安定した地域内流通を両立させていきます。

#### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 小浜水産加工処理施設の新設・稼働
- 水産加工処理施設の内覧会の実施
- 宿泊施設や飲食店が求める加工形態やニーズの調査

など

### プロジェクト2-3 新たな鳥羽ざかなのブランド化と付加価値向上

「漁業と観光の連携促進計画(改訂版)」でも触れられている通り、「答志島トロさわら」に続く新たな魚種の価値を見出し、商品化することで漁業者の所得向上を図ります。

#### 【具体的な取り組み・事業の例】

- AI等を活用した質の高い水産物の選定
- 鳥羽の水産物の価値を発信する広報・営業担当の任命
- ブランド化につながるストーリーの掘り起こし

など

## 戦略2:鳥羽産食材の徹底的な流通、提供

### プロジェクト2-4 鳥羽産食材の販路開拓、流通促進

水産加工処理施設の稼働により、市内の飲食店や宿泊施設での鳥羽産海産物の提供機会を大幅に増やすとともに、未利用魚を活用した独創的な料理や加工品を開発し、消費拡大を図ります。また、鳥羽産海産物を「食べられる場所」を増やすと共に、その情報と食材の旬の情報を確実に来訪者に伝える仕組みも構築します。

ふるさと納税事業の推進や全国のサテライト店舗の拡充を戦略的に進め、市内外の多角的な販路を通じて「鳥羽ブランド」の海産物の認知度を確実に高めていきます。

#### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 未利用魚等を活用した料理や加工品の開発
- 旬や暦・ストーリーを意識した食材や食の提供
- 多様なツールを活用した鳥羽産品の販売強化
- 鳥羽マルシェの魅力づくり
- 答志島トロさわらの域内流通確保
- ふるさと納税の返礼品へのさらなる活用
- 鳥羽ざかなサテライト店舗の拡充推進
- 伊勢志摩産の農産物の活用と提供 など

### プロジェクト2-5 海女・漁業者の支援と担い手の育成

鳥羽産食材の安定的な流通と提供を支えるため、伝統的な漁業文化の継承と担い手育成を推進します。具体的には、漁業の技術や文化を学ぶ「漁業体験」を通じて次世代への理解を深めるとともに、漁業者および海女への直接的な支援を行う「応援事業」を展開します。地域経済の基盤である漁業の持続可能性を高めつつ、日本の貴重な文化としての価値を維持・向上させます。

#### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 漁業の技術・文化を学ぶ「漁業体験」
- 漁業インターンの実施
- 藻場の再生や漁場環境の保全、密猟対策の強化
- 漁業のデジタル化支援
- 海女さん応援基金の継続実施
- 海女の労務環境の改善や必要な漁具の一部支援 など

### プロジェクト2-6 海洋環境、水産資源の保護のための研究と実践

鳥羽の恵みの源である「鳥羽うみ」を次世代へ引き継ぐため、海洋環境の保全と水産資源の保護を推進します。国としても力を入れている資源管理政策や脱炭素漁業、水産DXなどの動きをふまえつつ、鳥羽の海洋環境が直面している課題や資源回復に向けた研究・実践を強化し、豊かな生態系の維持を図ります。あわせて、海洋関連の学会大会誘致や海外の海洋研究者との研究交流等も促進し、学術的な知見を蓄積することで、環境保護への意識醸成と専門的な知の循環を促進します。

#### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 漁獲量回復・拡大に向けた研究と実践
- 藻場再生プロジェクト
- 海洋関係の学会大会誘致
- 鳥羽市として関心の高いテーマでの研究交流の実施 など

## ● 実施時期と実施主体

プロジェクト	実施時期			実施主体																				
	26年度	27年度	28年度	鳥羽市	観光協会	商工会議所	旅館組合	温泉振興会	漁観連携促進協議会	エコツーリズム推進協議会	広告宣伝戦略委員会	島の旅社	ツアーセンター	相差DMO	伊勢志摩観光コンベンション機構	漁業協同組合	農業協同組合	民間事業者	交通事業者	大学・研究機関	国・県	市民	その他	
PJ 2-1 漁観連携のさらなる発展	■	■	■	農林水産 観光商工	○		○		○					○		○					○			
PJ 2-2 水産加工処理施設の整備、活用	■	■	■	農林水産 観光商工	○		○		○							○		○						
PJ 2-3 新たな鳥羽ざかなのブランド化と付加価値向上	■	■	■	農林水産 観光商工	○	○	○		○		○			○		○		○		○				
PJ 2-4 鳥羽産食材の販路開拓、流通促進	■	■	■	農林水産 観光商工 企画財政	○	○	○		○					○		○	○	○						鳥羽マルシェ
PJ 2-5 海女・漁業者の支援と担い手の育成	■	■	■	農林水産 観光商工 生涯学習	○	○	○		○					○		○		○		○	○			
PJ 2-6 海洋環境、水産資源の保護のための研究と実践	■	■	■	農林水産 観光商工 生涯学習	○				○						○	○				○	○			

## 戦略3

## 滞在したくなる宿泊の魅力向上



<http://www.toba-onsen.com/>

### 【第3次観光基本計画における基本戦略3の考え方】

鳥羽市での宿泊体験そのものの価値を高めるため、宿泊につながる早朝や夜間のイベント、宿泊者限定の体験コンテンツの造成、泉源の保護と温泉の魅力発信等を通じて「泊まりたくなる魅力」を創出します。これと同時に、多様な食の魅力を感じていただき連泊にも対応するため、「泊食分離」の推進と中心市街地等の飲食店の充実を図ります。また、住民にも鳥羽の魅力を感じていただくため近隣住民向けの優待プログラムの実施にも取り組みます。

また、伊勢志摩の滞在拠点としてシングルユース、連泊、ワーケーションといった多様な宿泊形態への対応を進めるとともに、適切なサイクルでの施設改修促進支援や式年遷宮を契機としたプロジェクトを推進します。さらに、伊勢神宮にまつわるストーリーや伊勢志摩国立公園としての特性を活かした行政域を超えた広域連携による周遊の魅力づくりを強化します。

本戦略では、鳥羽市での宿泊の価値を高めるための取り組みとして、多様な宿泊形態、ニーズに対応できる宿泊施設が揃う鳥羽市の特徴を活かし、宿泊施設そのものの魅力の向上を目指します。そして、鳥羽温泉郷の魅力の発信をはじめとする宿泊者向けコンテンツの充実を図ることで、鳥羽での滞在を延ばし、長期滞在客、リピーターの増加につながる取り組みを推進します。あわせて、伊勢志摩国立公園、伊勢神宮を活かした広域連携を促進し、伊勢志摩エリアの滞在拠点としての位置づけを強化しつつ、周辺地域との周遊性を強化します。

第3次観光基本計画		前期AP	
主要施策		プロジェクト	
主要施策3-1	泊まりたくなる魅力づくり	⇒ プロジェクト3-1	泊まりたくなる、長く滞在したくなるコンテンツの造成
		プロジェクト3-2	鳥羽温泉郷の魅力づくりと発信
主要施策3-2	伊勢志摩の滞在拠点としての宿泊の魅力向上	⇒ プロジェクト3-3	多様な宿泊形態、ニーズに対応できる宿泊施設の魅力向上
主要施策3-3	長期滞在につながる広域連携	⇒ プロジェクト3-4	伊勢志摩国立公園、伊勢神宮を活かした魅力づくり、広域連携の促進
主要施策3-4	長期滞在から移住定住につながる受け入れ態勢整備	⇒ プロジェクト3-5	移住定住につながる滞在環境、受け入れ体制の構築

# 戦略3:滞在したくなる宿泊の魅力向上

## プロジェクト3-1 泊まりたくなる、長く滞在したくなるコンテンツの造成

早朝や夜間のイベントの開催など宿泊者向けのコンテンツの造成や鳥羽ならではの滞在スタイルの提案、鳥羽の魅力をより広く、深く体験し、知ってもらうことにより、日帰り客は鳥羽に宿泊し、宿泊客は鳥羽での宿泊を増やし長期滞在につながる取り組みを推進します。あわせて、滞在の延長に寄与する泊食分離を促進するため、中心市街地等の飲食店の充実を図ります。また、安定的な雇用にもつながる平準化の取り組みとして、近隣市民向けの宿泊促進等により閑散期対策を図ります。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 宿泊滞りにつながる早朝・夜間のイベントの開催
  - 泊食分離の推進と中心市街地等の飲食店の充実
  - 宿泊者限定のコンテンツ造成
  - 平準化につながる近隣市民向けの宿泊促進と閑散期対策
  - 鳥羽での過ごし方の提案
- など

## プロジェクト3-2 鳥羽温泉郷の魅力づくりと発信

鳥羽市内の宿泊客にとって重要な観光資源の1つである鳥羽温泉郷の魅力の更なる向上と情報発信を図り、滞在目的となるコンテンツとしてより強化します。

また、近年、鉱泉源の維持管理が課題となっていることから、鉱泉源の保護・維持管理や設備の補修など安定的な温泉供給のための支援を行います。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 鉱泉源の保護・維持管理
  - 鳥羽温泉郷に関する情報発信
  - 温泉の安定供給のための設備の補修
  - 鳥羽温泉郷の魅力づくり
- など

## プロジェクト3-3 多様な宿泊形態、ニーズに対応できる宿泊施設の魅力向上

あらゆる形態の宿泊施設が揃い、多様な客層、ニーズに対応できることは鳥羽の強みであると言え、この強みを活かし様々な滞在環境を提供するとともに、その情報発信を強化します。あわせて、宿泊施設においては老朽化した設備の改修、更新や適切な維持管理により、各施設の魅力向上を図るとともに、宿泊客の満足度向上を目指します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 宿泊施設の維持管理・改修
  - 誘客支援、宿泊客の満足度向上につながる取り組み
  - 多様な宿泊形態、ニーズへの対応と発信
  - 各宿泊施設に関する情報の発信
- など

# 戦略3:滞在したくなる宿泊の魅力向上

## プロジェクト3-4 伊勢志摩国立公園、伊勢神宮を活かした魅力づくり、広域連携の促進

周辺地域との広域連携により、2026年度に指定80周年を迎える伊勢志摩国立公園の豊かな自然や伊勢神宮の歴史、文化など周辺地域の観光資源を活用し、伊勢志摩地域としての滞在の魅力向上や周遊性の向上を図ります。特に、2033年の伊勢神宮式年遷宮に向けた御木曳が2026、27年度に行われることから、式年遷宮を契機とした伊勢志摩エリアへの観光客の増加を一過性のものにするのではなく、鳥羽での宿泊滞在につなげ、持続性のある観光地づくり、誘客を推進します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 伊勢志摩地域をはじめとする周辺地域との広域連携
- 伊勢志摩地域の周遊性の向上、魅力づくり、情報発信
- 式年遷宮を見据え、伊勢神宮の歴史を活用した魅力づくりなど

## プロジェクト3-5 移住定住につながる滞在環境、受け入れ体制の構築

長期滞在客やリピーターをターゲットとして、鳥羽の魅力的な観光資源を活用した長期滞在、移住体験プログラムを造成するなど、移住定住につながる施策を展開します。

あわせて、空き家の活用など長期滞在者、移住者の受け入れ環境整備を検討します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- リピーターをターゲットとした鳥羽ならではの長期滞在、移住体験プログラムの検討
- 空き家活用等の長期滞在、移住者受け入れ施設整備の検討など



鳥羽温泉郷 海女の湯治場  
<http://www.toba-onsen.com/amanotojiba/>



オクトバ  
<https://oktoba.net/>



とばるウェブサイト  
<https://tobaru-life.jp/>

## ● 実施時期と実施主体

プロジェクト	実施時期			実施主体																					
	26年度	27年度	28年度	鳥羽市	DMO観光協会	商工会議所	旅館組合	温泉振興会	漁観連携促進協議会	エコツーリズム推進協議会	広告宣伝戦略委員会	島の旅社	ツアーセンター	パラアプリ	相差DMO	伊勢志摩観光コンベンション機構	漁業協同組合	農業協同組合	民間事業者	交通事業者	大学・研究機関	国・県	市民	その他	
PJ 3-1 泊まりたくなる、長く滞在したくなるコンテンツの造成	■	■	■	観光商工	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○				
PJ 3-2 鳥羽温泉郷の魅力づくりと発信	■	■	■	観光商工	○		○	○												○					
PJ 3-3 多様な宿泊形態、ニーズに対応できる宿泊施設の魅力向上	■	■	■	観光商工	○		○	○	○	○			○							○					
PJ 3-4 伊勢志摩国立公園、伊勢神宮を活かした魅力づくり、広域連携の促進	■	■	■	観光商工	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○				○	○		○		周辺市町
PJ 3-5 移住定住につながる滞在環境、受け入れ体制の構築	■	■	■	観光商工 企画財政 建設	○	○																	○		

## 戦略4

## 多様な観光客を迎える体制づくり



### 【第3次観光基本計画における基本戦略4の考え方】

観光客の高齢化や外国人観光客の増加を見据え、この戦略では、外国人観光客の受け入れ環境をハード・ソフトの両面から集中的に整備します。具体的には、多言語対応の拡充や情報提供の改善などにより、言葉や文化の違いによる障壁を取り除きます。また、年齢、性自認、宗教、アレルギーの有無、障がいの有無などにかかわらず、多様な来訪者に対応できるようなハード面（施設、交通）とソフト面（サービス、情報）の体制を強化します。バリアフリー化やきめ細かな対応を通じて、誰もが安心して観光できるユニバーサルデザインを理念とした優しい観光地づくりを実現します。

本戦略では、外国人観光客、障がい者、高齢者をはじめとする多様な観光客を迎え、誰もが安心して観光できる鳥羽を目指した取り組みを推進します。

具体的には、今後国内観光客の需要が伸び悩む中でより重要度が高まる外国人観光客の受け入れのための情報提供、誘致活動の強化を図ります。また、多様な観光客のニーズにハード・ソフト両面から対応できる受け入れ体制の構築などユニバーサルデザインの観光地づくりを進めます。あわせて、ワンストップ案内所の開設の検討など観光案内、情報発信機能の強化を検討します。

第3次観光基本計画	
主要施策	
主要施策4-1	外国人観光客の受入体制・環境の整備
主要施策4-2	多様な来訪者のハード、ソフト両面での受け入れ体制強化
主要施策4-4	アクセシブルツーリズムの推進による優しい観光地づくり

前期AP	
プロジェクト	
⇒ プロジェクト4-1	外国人観光客の受け入れ体制・環境の整備
⇒ プロジェクト4-2	ターゲット層を明確にした誘致活動
⇒ プロジェクト4-3	多様な来訪者に対応した受け入れ体制の構築
⇒ プロジェクト4-4	平常時、災害時を問わず多様な来訪者に対応した情報発信の強化
⇒ プロジェクト4-5	宿泊施設、観光施設、交通機関等のバリアフリー化の促進

# 戦略4: 多様な観光客を迎える体制づくり

## プロジェクト4-1 外国人観光客の受け入れ体制・環境の整備

外国人観光客の誘致、受け入れのため、観光案内所における多言語対応をはじめ、多言語での観光情報や緊急情報の発信、おもてなし活動、インバウンドに対応した高付加価値な観光地づくりなどの環境整備を促進します。  
あわせて、通訳ガイドの育成および登録制度の検討、適切なマナー啓発などの情報発信を強化します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 多言語での観光情報の発信や災害時の情報提供
- 観光案内所における多言語対応
- 通訳ガイドの育成、登録制度の検討
- 外国人観光客への分かりやすいマナーの伝達、啓発 など

## プロジェクト4-2 ターゲット層を明確にした誘致活動

環境や地域の歴史文化などに関心の高い外国人観光客を誘致することで、鳥羽市の観光の将来像の実現に寄与することが期待され、フランスなどの海外重点マーケットからの来訪者は今後さらなる増加が予想されます。そこで、重点マーケットに効果的に訴求していくための英語対応も強化し、誘致活動を進め、高付加価値な外国人観光客の増加を目指します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- ターゲット層に向けたプロモーション戦略の検討
- 地元への効果を意識したクルーズ船の誘致
- 高付加価値コンテンツの造成 など

## プロジェクト4-3 多様な来訪者に対応した受け入れ体制の構築

誰もが安心できる観光地を目指して、外国人観光客や障がい者、高齢者だけでなく、年齢、性自認、宗教、アレルギーの有無、障がいの有無などにかかわらず多様な来訪者の受け入れ体制を構築します。具体的には、それぞれの来訪者のニーズに応じ、観光案内所での情報提供やボランティアによる観光案内、多様な来訪者に対応できるコンテンツ造成を行うほか、将来的には観光客それぞれが求める観光情報や施設等の予約が一元的に対応可能となるワンストップ案内所の開設に向けた検討を行います。  
また、事業者、市民が心遣い、おもてなしの心を持って観光客に接することができるよう、周知、啓発活動を推進します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 多様な来訪者に対応した受け入れ環境整備
- 観光案内所での多様な情報提供
- ワンストップ案内所開設に向けた検討
- 来訪者のニーズに対応できるコンテンツの造成と発信
- アクセシブルアドベンチャーツーリズムの継続推進
- 「ちょっとした心遣い」でおもてなしを行う事業者、市民への周知、啓発
- 来訪者のニーズに対応できる専門的なガイドの養成と観光案内 など

# 戦略4: 多様な観光客を迎える体制づくり

## プロジェクト4-4 平常時、災害時を問わず多様な来訪者に対応した情報発信の強化

迅速で正確な情報提供ができるデジタルマップやスマートフォンアプリ等を活用し、外国人観光客向けの観光施設やマナー啓発など多言語での案内、バリアフリー観光情報の提供など、日本人観光客を含めた多様な来訪者に対応した観光情報を発信します。あわせて、同じプラットフォームを活用し、災害時に全ての観光客に届く情報提供につなげます。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 外国人、障がい者、高齢者など来訪者のニーズに応じた多様な観光情報の提供、案内
- 迅速で正確な情報提供のためのデジタルマップ整備などDX技術活用 など

## プロジェクト4-5 宿泊施設、観光施設、交通機関等のバリアフリー化の促進

ハード面での受け入れ対応の強化として、宿泊施設、観光施設、交通機関等において施設改修等に合わせて積極的なバリアフリー化を推進します。なお、バリアフリー化にあたっては、当事者の声を反映するなど適切な整備がなされるよう事業者への啓発を図ります。ハード・ソフト両面からの対策により、誰もが安心して観光できる鳥羽を目指して、ユニバーサルデザインの観光地づくりを推進します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- バリアフリー観光情報、各観光施設の受け入れ体制に関する情報発信
- 宿泊施設、観光施設、交通機関等のバリアフリー化の促進
- バリアフリー観光全国フォーラム開催 など



フランスをターゲットとしたプロモーション映像  
「Fantastique Toba」  
<https://www.youtube.com/watch?v=YjSKR94Cw4I>



ばりふりっと鳥羽  
[https://www.barifuri.com/files/barifiritto\\_toba.pdf](https://www.barifuri.com/files/barifiritto_toba.pdf)



鳥羽あんしんCAN  
<https://www.city.toba.mie.jp/material/files/group/8/20250826sityouteireikaikensiryou.pdf>

鳥羽市観光協会がつくった  
おいしい防災食

## ● 実施時期と実施主体

プロジェクト	実施時期			実施主体																				
	26年度	27年度	28年度	鳥羽市	DMO観光協会	商工会議所	旅館組合	温泉振興会	漁観連携促進協議会	エコツーリズム推進協議会	広告宣伝戦略委員会	島の旅社	ツアーセンター バリアフリー	相差DMO	伊勢志摩観光 コンベンション機構	漁業協同組合	農業協同組合	民間事業者	交通事業者	大学・研究機関	国・県	市民	その他	
PJ 4-1 外国人観光客の受け入れ体制・環境の整備	■	■	■	観光商工	○	○	○	○							○			○						
PJ 4-2 ターゲット層を明確にした誘致活動	■	■	■	観光商工	○		○	○			○				○									
PJ 4-3 多様な来訪者に対応した受け入れ体制の構築	■	■	■	観光商工	○	○	○	○		○		○	○	○	○				○	○				
PJ 4-4 平常時、災害時を問わず多様な来訪者に対応した情報発信の強化	■	■	■	観光商工 総務	○	○	○						○									○		
PJ 4-5 宿泊施設、観光施設、交通機関等のバリアフリー化の促進	■	■	■	観光商工 建設 定期船 健康福祉	○	○	○						○						○	○				

## 戦略5

## 快適な都市基盤・景観の整備



### 【第3次観光基本計画における基本戦略5の考え方】

鳥羽駅周辺を「鳥羽の玄関口」として整備し、到着時の印象を向上させるとともに、二次交通をワンストップで使いやすく分かりやすくすることで、市内各所への回遊性を大幅に向上させ、観光客の利便性を高めます。

さらに、鳥羽ならではの漁村集落の景観や沿道・沿線景観を磨き上げることで、滞在と回遊の満足度を高めます。これらの取り組みと並行して、災害時に迅速に観光客を誘導できる体制や、災害発生後に各主体と連携して観光客の安心を守る体制を構築することで、観光客が安心して滞在できる環境を整えます。

本戦略では、観光客にとっても市民にとっても快適で暮らしやすく、魅力的な観光地としての都市基盤の強化、景観の整備を進めます。具体的には、鳥羽駅周辺における「鳥羽の玄関口」としての整備に向けた検討を行うほか、玄関口と南鳥羽や離島などの市内各地域を便利で快適に結ぶ移動手段の提供、利便性向上を図ります。また、漁村集落やリアス海岸の景観の保全を図り、鳥羽市の魅力的な観光資源として活用します。さらに、地域特性をふまえ、事業者、市民と連携した防災体制の強化を図ります。

第3次観光基本計画	
主要施策	
主要施策5-1	鳥羽の玄関口としての鳥羽駅周辺の整備
主要施策5-2	使いやすくわかりやすい二次交通による回遊性の向上
主要施策5-3	漁村集落の景観や沿道・沿線景観の整備
主要施策5-4	災害に強い安全・安心なまちづくり

前期AP	
プロジェクト	
⇒ プロジェクト5-1	鳥羽駅周辺エリアの再生
⇒ プロジェクト5-2	鳥羽駅周辺の交通結節点機能の強化と二次交通の利便性向上
⇒ プロジェクト5-3	良好な集落景観、沿道・沿線景観、視点場の整備と発信
⇒ プロジェクト5-4	空き家、廃屋の撤去や街路樹等の適切な維持管理による景観向上
⇒ プロジェクト5-5	市民も観光客も安全・安心な災害に強いまちづくり
⇒ プロジェクト5-6	災害に備えた宿泊施設、観光施設との連携強化

# 戦略5: 快適な都市基盤・景観の整備

## プロジェクト5-1 鳥羽駅周辺エリアの再生

2025年度に策定した鳥羽駅周辺エリア再生ビジョンに基づき、佐田浜エリア等鳥羽駅周辺のにぎわい・交流機能の整備に向けた検討、関係機関との協議を進めます。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 鳥羽駅周辺の再生に向けた関係機関との協議
- クルーズ船の受入に必要な施設整備に向けた検討 など

## プロジェクト5-2 鳥羽駅周辺の交通結節点機能の強化と二次交通の利便性向上

鳥羽市周辺には鉄道2路線をはじめ、路線バスや各宿泊施設の送迎、定期船が集積し、鳥羽市の観光の玄関口、拠点となっています。この拠点性を活かし、乗り換えの利便性向上や鳥羽駅周辺エリアの再生に合わせたバリアフリー化などにより交通結節点機能の強化を検討します。

あわせて、交通機関を補完し、かつ、それ自体が観光資源となるサイクルツーリズムの推進、定期船等のキャッシュレス化の検討、次世代交通手段の導入検討などにより二次交通の利便性向上を図ります。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 鉄道、バス、定期船と連携した交通結節点機能の強化
- シェアサイクルの活用などによる移動手段の提供、サイクルツーリズムの推進
- 電気自動車など環境にやさしい次世代交通手段の導入の検討
- 定期船等のキャッシュレス化の検討 など

## プロジェクト5-3 良好な集落景観、沿道・沿線景観、視点場の整備と発信

鳥羽の基幹産業である漁業を生業として形成された漁村景観や、美しいリアス海岸への眺望が楽しめる視点場など、良好な景観はそれ自体が観光資源となっています。防災等の課題への対応をしつつ集落景観の保全を図るとともに、漁村集落や視点場などを巡る観光ルートの発信など、鳥羽らしさを表す魅力的な景観の活用を図ります。あわせて、観光客の移動経路となる鳥羽駅周辺や鉄道沿線、主要な幹線道路沿道の景観整備、維持管理を図ります。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 漁村景観の保全と観光資源としての活用
- 鳥羽駅周辺や幹線道路沿道の景観整備、維持管理
- 良好な視点場や景観資源、景観を巡る観光ルート魅力発信 など

# 戦略5: 快適な都市基盤・景観の整備

## プロジェクト5-4 空き家、廃屋の撤去や街路樹等の適切な維持管理による景観向上

管理されていない空き家、廃屋、屋外広告物等や伸びた街路樹、植栽などは観光地の景観を阻害し、観光客の満足度低下につながる要因となり得ます。新たな施設整備を図るだけでなく、このような景観阻害要因を除去するだけでも景観の改善につながることから、老朽化した空き家、廃屋等の除去や街路樹、植栽等の剪定など適切な維持管理を図ります。あわせて、空き家の活用を検討し、阻害要因の除去だけでなく賑わい創出につなげます。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 空き家、廃屋の撤去、街路樹、植栽等の適切な維持管理による景観阻害要因の除去
- 空き家活用の検討

など

## プロジェクト5-5 市民も観光客も安全・安心な災害に強いまちづくり

防災は行政だけでなく事業者、地域、市民が一丸となって取り組むべき内容であり、事業者や市民の日頃からの防災意識が重要となります。事業者や市民も参加する防災訓練の実施や備蓄を行うなど意識啓発を行います。

また、特に観光客の多い鳥羽市においては、災害発生時に避難場所などの地域事情に慣れていない被災者、帰宅困難者が多く発生する恐れがあることから、多様な観光客に対応できる防災情報の提供や災害時の避難誘導ができるよう対策を進めます。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 事業者や市民への防災に関する意識啓発
- 外国人、高齢者、障がい者、子どもなど多様な観光客に対応できる適切な防災情報提供体制の構築
- 市民、観光事業者が連携した避難訓練

など

## プロジェクト5-6 災害に備えた宿泊施設、観光施設との連携強化

災害時における市民、観光客の避難場所となることを見据え、宿泊施設、観光施設等との連携強化を図るとともに、各施設における防災体制の強化につながる取り組みの周知、啓発等を行います。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 災害時の受け入れ、避難場所の提供に関する協定の締結など宿泊施設、観光施設等と連携強化
- 防災に関する人材教育
- 宿泊施設、観光施設における備蓄品等の配備

など

## ● 実施時期と実施主体

プロジェクト	実施時期			実施主体																			
	26年度	27年度	28年度	鳥羽市	DMO観光協会	商工会議所	旅館組合	温泉振興会	漁観連携促進協議会	エコツーリズム推進協議会	広告宣伝戦略委員会	島の旅社	パリアフリーツアーセンター	相差DMO	伊勢志摩観光コンベンション機構	漁業協同組合	農業協同組合	民間事業者	交通事業者	大学・研究機関	国・県	市民	その他
PJ 5-1 鳥羽駅周辺エリアの再生	■	■	■	企画財政観光商工建設	○	○												○	○		○		
PJ 5-2 鳥羽駅周辺の交通結節点機能の強化と二次交通の利便性向上	■	■	■	企画財政観光商工建設定期船	○		○											○	○		○		
PJ 5-3 良好な集落景観、沿道・沿線景観、視点場の整備と発信	■	■	■	建設観光商工														○	○		○	○	
PJ 5-4 空き家、廃屋の撤去や街路樹等の適切な維持管理による景観向上	■	■	■	建設観光商工														○				○	
PJ 5-5 市民も観光客も安全・安心な災害に強いまちづくり	■	■	■	総務観光商工建設	○	○	○											○	○		○	○	
PJ 5-6 災害に備えた宿泊施設、観光施設との連携強化	■	■	■	総務観光商工	○		○											○	○		○		

## 戦略6

## 稼げてやりがいのある働きやすい鳥羽



### 【第3次観光基本計画における基本戦略6の考え方】

観光産業を地域経済を力強く牽引し、将来にわたり人材が集まる魅力的な産業へと変革するための根幹を成す指針です。この戦略では、まず業務効率化や生産性向上に向けた支援を強化することで、観光産業全体を「稼げる」体質へと成長させます。その上で、収益が健全な再投資サイクルに結びつき、宿泊施設の設備投資やリニューアルが円滑に進むための支援を強化するとともに、地域を牽引する経営者の育成を進めます。同時に、労働環境や住環境の改善を支援するプログラム、外国人労働者のサポート、移住者への子育て支援の充実など、多様な人材が定着しやすい働きやすい就労環境の創出を徹底します。さらに、観光業に対する正しい理解促進や大学との連携によるリクルート活動、多様な年代の就労支援、共同での人材確保、起業支援といった施策を通じて、労働者がやりがいや誇りを感じ、働きたいと思える魅力的な雇用を創出することを目指します。これらの施策を一体的に推進することで、鳥羽の観光産業を地域で最も魅力的な職業の一つとして確立します。

本戦略では、観光産業を地域経済を牽引する「稼げる産業」へ転換し、将来にわたり人材が集まる魅力的な分野として確立することを目指します。そのために、宿泊施設、観光施設における生産性向上や業務効率化により収益力を高め、さらに施設の設備投資やリニューアルが進む健全な再投資サイクルの構築に繋がります。あわせて、地域を牽引する経営者の育成や起業支援を推進します。

また、観光業界が直面する深刻な人手不足の解消に向け、就労環境の改善や観光業の魅力の向上、発信等により、鳥羽で働きたい人材の確保、定着率の向上を図ります。そして、観光業を地域で誇りとやりがいを持って働ける基幹産業を目指します。

### 第3次観光基本計画

#### 主要施策

主要施策6-1 働きやすい就労環境の創出

主要施策6-2 働きたいと思える魅力的な雇用の創出

主要施策6-3 稼げる観光産業に向けた生産性向上と成長支援

### 前期AP

#### プロジェクト

⇒ プロジェクト6-1 事業者との連携による就労環境の向上

⇒ プロジェクト6-2 鳥羽で働きたい人への支援、観光業の魅力向上

⇒ プロジェクト6-3 人材確保につながる地元の学校等との連携

⇒ プロジェクト6-4 生産性向上、成長につながる支援

# 戦略6:稼げてやりがいのある働きやすい鳥羽

## プロジェクト6-1 事業者との連携による就労環境の向上

近年、観光業界において深刻な課題となっている人手不足の解消のためには、多様な労働者の受け入れによる人員の確保に限らず、定着率の向上を図る必要があります。そのためには、労働環境の改善等による働きやすい職場づくりだけでなく、地域に住む従業員の生活環境の改善が重要な要素となります。具体的には、適正な労働環境に関する事業者への啓発を図るとともに、各施設の合同研修の実施などにより事業者への支援を行うとともに、従業員同士の交流機会の創出などを検討します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 適正な労働環境、住環境改善の支援
- 合同研修や交流機会の創出
- 事業者向け、従事者向けのセミナー等の開催
- 多様な労働者の受け入れ支援

など

## プロジェクト6-2 鳥羽で働きたい人への支援、観光業の魅力向上

地元出身者や鳥羽への旅行をきっかけに鳥羽で働きたいと思う人を獲得するため、観光業の魅力向上やU、I、Jターン就職の支援に取り組み、人手不足の解消、ひいては交流人口、定住人口の拡大を目指します。あわせて、観光業で働くことの価値を発信し、業界に対する理解の促進を図ります。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 観光業に対する理解の促進
- 地元出身者、長期滞在者向けの求人情報発信
- U、I、Jターン就職の支援

など

## プロジェクト6-3 人材確保につながる地元の学校等との連携

地元出身者や地元の学校の卒業生が市内で就職できる仕組みを構築し、人材確保につなげるため、鳥羽高校など地元の教育機関との連携を進めます。あわせて、インターンシップの支援など在校中から観光産業に触れる機会の創出を図ります。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 鳥羽高校など地元の教育機関との連携
- インターンシップの支援

など

## プロジェクト6-4 生産性向上、成長につながる支援

地域で稼げる観光産業を目指し、宿泊施設や観光施設における生産性の向上や健全な設備投資を図るための事業者向けの支援を検討します。また、起業、創業、スタートアップ等を中心とした創業者向けセミナーの開催などを通じて鳥羽市内での新たな事業の支援を行います。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

● 生産性向上に向けた事業者支援の検討

● 起業・創業支援

など



電子パンフレット「私、宿で働きます！」  
[https://www.city.toba.mie.jp/soshiki/shoko/gyomu/koyo\\_shugyo/6756.html](https://www.city.toba.mie.jp/soshiki/shoko/gyomu/koyo_shugyo/6756.html)



創業者向けセミナー



インターンシップ支援

## ● 実施時期と実施主体

プロジェクト	実施時期			実施主体																				
	26年度	27年度	28年度	鳥羽市	DMO観光協会	商工会議所	旅館組合	温泉振興会	漁観連携促進協議会	エコツーリズム推進協議会	広告宣伝戦略委員会	島の旅社	ツアアセンター	相差DMO	伊勢志摩観光コンベンション機構	漁業協同組合	農業協同組合	民間事業者	交通事業者	大学・研究機関	国・県	市民	その他	
PJ 6-1 事業者との連携による就労環境の向上	■	■	■	観光商工	○	○	○											○						
PJ 6-2 鳥羽で働きたい人への支援、観光業の魅力向上	■	■	■	観光商工	○	○	○											○						
PJ 6-3 人材確保につながる地元の学校等との連携	■	■	■	観光商工	○	○	○											○		○				
PJ 6-4 生産性向上、成長につながる支援	■	■	■	観光商工	○	○	○											○						

## 戦略7

## 戦略的な情報発信



### 【第3次観光基本計画における基本戦略7の考え方】

ターゲットに合わせ、発信内容や手法を設計し戦略的な情報発信を実施します。来訪者向けプロモーション(BtoC)としては、情報発信戦略を明確に構築し、活用ツールを選定します。特に、鳥羽の海で生きる人々の顔が見える情報や、季節ごとの具体的な過ごし方を発信し、同時に鳥羽市が強みとするバリアフリー対応など、すでに受入体制が整っている情報を適切に発信します。重点マーケットを戦略的に誘致するため、海外重点マーケットへのプロモーションを強化し、海洋関係の学会やシンポジウムの誘致を積極的に行います。また、高付加価値旅行者層向けに特別な旅行体験に必要な情報を集約し、ビジネスパートナーへの提供を強化します。

さらに市民向けのインナープロモーションにも力を入れ、閑散期対策も兼ねた市民や近隣住民向けの優待プログラムを開発し、市民等への利益還元を促します。さらに、市内教育機関と連携した特徴的な教育を実施し、観光の効果や鳥羽の海や漁業に関する研究成果などの情報を充実させることで、市民の理解と参画意識の向上を図ります。

本戦略では、ターゲットを明確化した戦略的なプロモーションと、市民の参画意識を高めるインナープロモーションを両輪で推進します。来訪者向けには、鳥羽の海に生きる人々のストーリーや季節ごとの体験、バリアフリー情報等を最適なツールで発信します。また、海外重点マーケットへの誘致に加え、海洋関連の学会やシンポジウムの誘致、高付加価値旅行者層向けの情報集約を行い、ビジネスパートナーとの連携を強化します。同時に、市民や近隣住民向けの優待プログラムによる利益還元や、教育機関と連携した海洋・観光教育を実施します。これにより、市民が誇りを持って観光振興を支える体制を確立します。

第3次観光基本計画	
主要施策	
主要施策7-1	来訪者向けプロモーション(BtoC)
主要施策7-2	重点マーケットを意識した戦略的な誘致(BtoB)
主要施策7-3	市民向けのインナープロモーション

⇒

⇒

⇒

前期AP	
プロジェクト	
プロジェクト7-1	ターゲットに応じた情報発信ツールの構築
プロジェクト7-2	来訪者のニーズに応じたプロモーション、情報発信の充実
プロジェクト7-3	重点マーケットへのプロモーションと誘客の展開
プロジェクト7-4	海洋関係の学会、シンポジウム等の誘致
プロジェクト7-5	観光の効果の市民への還元、インナープロモーション

# 戦略7: 戦略的な情報発信

## プロジェクト7-1 ターゲットに応じた情報発信ツールの構築

デジタルとアナログを効果的に組み合わせ、各ターゲットに確実に届く情報経路を最適化します。日本人やインバウンド客にはSNS等での共感型発信を強化しつつ、高付加価値層にはDMC等との連携を深め、対面や専門窓口を通じた質の高い情報提供体制を構築します。一方で、現在乱立している各主体の観光情報の整理を行い、必要とする層に効果的に届く導線を整理します。

移住・就労希望者には相談窓口と連動した情報整備を行い、市民向けには「広報とば」の活用や、学校教育における子供を通じた情報伝達など、日常生活に根ざした多角的な周知方法を確立します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 質の高い画像や動画素材の収集と活用
- Webサイトの改修、見直し
- GoogleBusinessProfileへの登録
- 現在公開されているサイトの整理
- 高付加価値旅行市場を得意とするDMCとの連携
- MICEを専門とする会議運営会社等との連携 など

## プロジェクト7-2 来訪者のニーズに応じたプロモーション、情報発信の充実

構築したツールを活用し、食をはじめとした来訪者が求める情報の発信を強化し、ターゲットの「食べたい・行きたい」という意欲を確実に喚起します。特に、季節ごとに移ろう「旬の魚介」の情報や、海女・漁師の日常にある物語、具体的な過ごし方など、顔の見える情報を情緒豊かに届けます。あわせて、高付加価値旅行者層が求める特別な旅行体験の情報に加え、鳥羽の強みであるユニバーサルツーリズム対応の安心感や災害時を想定した情報などを恒常的に提供します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 来訪者のニーズをふまえた食の情報発信(食材の旬、食べ方、食べられる店舗や宿など)の強化
- ヴィーガン、アレルギー対応等の情報提供の実施
- 災害時を想定した情報発信 など

## プロジェクト7-3 重点マーケットへのプロモーションと誘客の展開

DMOが主体となって市場動向や地域の受け入れ体制を分析し、鳥羽の価値を大切にしてくれる「重点マーケット」の選定と戦略策定を主導します。家族連れや3世代旅行者、海洋関係の研究者、エシカル層、長期滞在してくれる可能性の高いワーケーション実施層などを候補に、持続可能な観光に寄与するターゲットをDMOが責任を持って定めます。選定後は、各層の関心に合わせたプロモーションを展開し、地域と来訪者が良好な関係を築く「質の高い誘客」の実現に向けたPDCAサイクルを確立します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 「鳥羽モデルのエコツーリズム」による国際貢献
- 重点マーケットの選定 など
- 重点マーケットを意識した戦略的なプロモーション活動

## プロジェクト7-4 海洋関係の学会、シンポジウム等の誘致

鳥羽の豊かな海洋環境と学術的価値、宿泊施設等のハードが整っている利点を活かし、海洋関連の学会やシンポジウムの誘致を強化します。具体的には、国内外の研究機関や大学とのネットワークを構築し、海洋関係の調査研究や研究交流の場として鳥羽を提案します。学会開催時には、市内宿泊施設や飲食店、体験メニュー等のパッケージ化により地域への経済効果を高める他、市内の教育機関等とも連携することでレガシーを最大化し、閑散期の需要創出や専門的知見の地域還元を図ります。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 学会等で活用できる会議室やユニークメニュー等の集約化
- MICEを専門とする会議運営会社等との連携
- エクスカーション等のプログラム化
- 通訳ガイドの登録化や育成
- 海洋関係学会へのプロモーション

など

## プロジェクト7-5 観光の効果の市民への還元、インナープロモーション

観光や漁業の恩恵を市民が直接実感できる仕組み作りと、鳥羽ならではの資源を活かした独自教育に注力します。具体的には、市民向けの宿泊・体験優待プログラムを構築し、地産地消の促進を通じて地域への愛着を深めます。

また、漁業・観光・環境が密接に関わる鳥羽の強みを活かし、小中高校と連携した特色ある探究学習を展開します。国内外の多様な知見を集め、それをレガシーとして市内の子供たちに共有していくことで、質の高い独自の教育環境を確立します。

また、宿泊税や入湯税を活用した事業の紹介や、鳥羽市にとっての観光産業や漁業の効果を見える化し、市民や従事者向けにも発信します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 市内開催イベントやセミナー等の市民向け情報発信の強化
- 宿泊施設や観光施設の市民優待期間の設置
- 「広報とば」等での観光による効果の定期的な情報発信

など



広報とば 令和5年12月1日号  
サステナブルツーリズムを目指して



日仏海洋学シンポジウム  
<https://www.sfjo-lamer.org/symposium/2025/index.ja.html>

## ● 実施時期と実施主体

プロジェクト	実施時期			実施主体																					
	26年度	27年度	28年度	鳥羽市	DMO観光協会	商工会議所	旅館組合	温泉振興会	漁観連携促進協議会	エコツーリズム推進協議会	広告宣伝戦略委員会	島の旅社	ツアアセンター	パラアプリ	相差DMO	伊勢志摩観光コンベンション機構	漁業協同組合	農業協同組合	民間事業者	交通事業者	大学・研究機関	国・県	市民	その他	
PJ 7-1 ターゲットに応じた情報発信ツールの構築	■	■	■	観光商工	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									
PJ 7-2 来訪者のニーズに応じたプロモーション、情報発信の充実	■	■	■	観光商工	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			○						
PJ 7-3 重点マーケットへのプロモーションと誘客の展開	■	■	■	観光商工	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			○						
PJ 7-4 海洋関係の学会、シンポジウム等の誘致	■	■	■	観光商工 農林水産	○		○	○		○						○			○		○				
PJ 7-5 観光の効果の市民への還元、インナープロモーション	■	■	■	観光商工	○	○	○	○			○				○	○							○		

戦略8

観光財源の効果的な活用と推進体制の強化



【第3次観光基本計画における基本戦略8の考え方】

国の動向も見据えつつDMO等の体制強化を図るとともに、2026年4月に導入する宿泊税等を財源とした観光振興を着実に遂行するため、DMOを中心とした官民連携の推進体制を構築します。

具体的には、観光まちづくりを担うDMOの組織そのものの強化を図るとともに、意思決定から実行に至るプロセスにおいて、行政との役割分担の元で一体となった連携体制を強化します。この強固な推進体制と透明性の高い財源活用を通じて、地域全体で観光戦略を共有し、実効性を高めてまいります。

また、観光による収益を地域に還元することで、市民と観光客が共存・共栄できる観光まちづくりを充実・強化します。このために、観光財源を効果的に活用することが不可欠であり、確保した財源を景観や地域資源の保全活用、宿泊客の満足度向上、受け入れ体制の強化、観光インフラ整備などの分野に配分します。

本戦略では、2026年4月に導入される宿泊税を原動力に、持続可能な観光地経営を実現するための官民連携体制を確立します。観光振興の核となるDMOの組織能力を強化し、行政との明確な役割分担のもとで、迅速かつ実効性の高い意思決定プロセスを構築します。宿泊税等の財源については、透明性を確保した上で、景観や地域資源の保全、宿泊客の満足度向上、観光インフラ整備へ戦略的に配分します。観光収益を市民生活の利便性向上や地域課題の解決へ還元することで、市民と来訪者が共に恩恵を享受できる共存共栄のモデルを追求します。前期3カ年では、この新たな財源活用サイクルの基盤を固め、地域一丸となって観光まちづくりを推進する体制を構築します。

第3次観光基本計画	
主要施策	
主要施策8-1	市民と観光客が共存・共栄する観光まちづくり充実・強化
主要施策8-2	観光財源の効果的な活用
主要施策8-3	観光まちづくりを担う観光関連団体(登録DMO等)、振興団体の組織強化、官民連携の強化

前期AP	
プロジェクト	
⇒ プロジェクト8-1	市民が関わる観光まちづくりの推進
⇒ プロジェクト8-2	効率的かつ精度の高い観光統計の整備と活用
⇒ プロジェクト8-3	観光財源(宿泊税等)を活用した施策の展開と適切なガバナンス
⇒ プロジェクト8-4	官民連携の促進とDMOの体制強化
⇒ プロジェクト8-5	行政、DMOの業務の適正化

# 戦略8: 観光財源の効果的な活用と推進体制の強化

## プロジェクト8-1 市民が関わる観光まちづくりの推進

観光の成果が市民生活に還元されるプロセスを多角的に可視化し共有します。宿泊税の活用実績だけでなく、観光がもたらす地域経済への波及効果や、観光地ゆえに整備される公共交通・公共インフラの利便性、街の賑わい創出といった「観光の恩恵」をデータや事例で定期的に公表します。あわせて、市民が地域課題の解決提案や実際の取り組みに寄与できる枠組みを構築し、市民が誇りを持って参画する観光まちづくりを推進します。

観光ボランティアについては、ボランティアとして活躍できる場と、通訳ガイドのように職業として活躍できる場の棲み分けを意識した上で、市民に活躍いただける機会を創出していきます。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 観光ボランティアの活躍機会の創出
- 地域内参加率の向上及び参画体制の強化
- 「広報とば」等での観光による効果の定期的な情報発信 など

## プロジェクト8-2 効率的かつ精度の高い観光統計の整備と活用

客観的データに基づく観光経営体制(EBPM)を確立します。人流データや宿泊統計、SNSのクチコミ分析等を統合し、来訪者の動向や消費額を迅速かつ精度の高い数値として可視化します。これらのデータをDMOと行政で共有し、プロモーションの成果検証や次なる戦略策定にダイレクトに反映させます。さらに、分析結果を地域事業者へ定期的にフィードバックすることで、市内全体の経営感覚の向上と、データに基づいた効率的な受け入れ体制の整備を図ります。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 宿泊税の導入と連動した宿泊者動向の把握
- 観光基本計画で掲げた指標に関するデータの取得
- 速報性の高いデータ共有の仕組みづくり など

# 戦略8:観光財源の効果的な活用と推進体制の強化

## プロジェクト8-3 観光財源(宿泊税等)を活用した施策の展開と適切なガバナンス

2026年4月に導入する宿泊税を財源とし、観光資源の磨き上げによる魅力向上、多言語対応やバリアフリー化といった受け入れ環境の充実、戦略的な情報発信の強化など、宿泊税の目的達成のための各種施策を推進します。確保した財源を景観保全や観光インフラ整備、宿泊客の満足度向上に資する分野へ適正に配分し、観光地の価値最大化に向けた投資を着実に遂行します。

あわせて、宿泊税が適正かつ効果的に活用するためのガバナンス体制を確立します。行政とDMO、観光事業者等で構成する「アクションプログラム拡大管理会議」を設置し、施策の優先順位や成果を客観的に評価する仕組みを導入します。あわせて、予算の配分結果や具体的な事業成果をウェブサイト等を通じて市民や宿泊客へ透明性高く発信し、宿泊税運用に対する信頼性と納得感を醸成します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 前期アクションプログラムに基づき、宿泊税を充当する施策の推進
- 使途に関する認識の共有
- 宿泊税を活用したパイロットプロジェクトの検討
- 観光財源活用のガバナンス体制の確立
- 対外向け・対内向けの観光財源使途の情報発信 など

## (参考)宿泊税の使途

### 宿泊促進(宿泊者の満足度向上)

- シャトルバスの運行やかもめバスなどの利便性向上、デジタルマップやワンストップ案内所多言語対応など
- 学生団体、修学旅行等の教育旅行や魅力アップのための旅館組合等への支援
- 観光事業者との連携強化など満足度向上

### 受け入れ体制の強化、観光インフラ整備

- 従業員満足度向上による定着率向上、人材不足対策
- 宿泊施設、観光施設における環境保全の取り組み
- 観光まちづくりの推進、観光施設、宿泊施設等の活用
- 災害時における観光客などの安全対策

### 伊勢志摩国立公園ならではの景観や地域資源等の保全・活用

- 公園などの視点場等の景観整備
- 新たな商品開発、体験コンテンツの充実

### 観光関連団体の組織強化

- 専門人材の活用や観光関連団体の組織強化、人材育成

### その他

- 賦課徴収に関する経費、特別徴収義務者への支援

## プロジェクト8-4 官民連携の促進とDMOの体制強化

DMOを核とした官民の役割分担を明確化し、一体的な推進体制を構築します。DMOにおいては、体制の充実やデジタル活用の習熟を進め、データに基づく施策の立案機能を強化します。あわせて、行政との定期的な政策協議の場を定例化し、現場のニーズを迅速に施策へ反映させる仕組みを整えます。官民が共通の指標(KPI)を共有し、連携してPDCAを回すことで、地域一丸となった観光地経営を推進します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- DMO経営戦略の策定
  - DMO職員の雇用条件の改善や働きやすい環境づくり
  - 行政とDMOの定例ミーティング実施
  - 専門人財や新卒新規雇用などの検討
- など

## プロジェクト8-5 行政、DMOの業務の適正化

前期3カ年は、新たな施策の増加に対応するため、行政とDMOの業務分担を見直し、組織全体の生産性を向上させます。重複業務の整理やデジタル技術(DX)の導入による事務作業の効率化を進め、創出された時間を戦略立案や現場支援などの高付加価値業務にシフトします。また、各業務の成果指標を明確化し、他の団体等に任せるべきものは手放す等、DMOが取り組むべき業務の選定や見直しを行うことで、限られたリソースを重点施策へ集中投下できる適正な運営体制を確立します。

### 【具体的な取り組み・事業の例】

- 既存事業の棚卸しによる取り組むべき事業の選別
  - DX化やAIの活用による業務の効率化や省力化
- など



宿泊税チラシ



鳥羽市観光統計

## ● 実施時期と実施主体

プロジェクト	実施時期			実施主体																				
	26年度	27年度	28年度	鳥羽市	DMO観光協会	商工会議所	旅館組合	温泉振興会	漁観連携促進協議会	エコツーリズム推進協議会	広告宣伝戦略委員会	島の旅社	バリアフリーツアーセンター	相差DMO	伊勢志摩観光コンベンション機構	漁業協同組合	農業協同組合	民間事業者	交通事業者	大学・研究機関	国・県	市民	その他	
PJ 8-1 市民が関わる観光まちづくりの推進	■	■	■	観光商工	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○					○	
PJ 8-2 効率的かつ精度の高い観光統計の整備と活用	■	■	■	観光商工	○		○											○						
PJ 8-3 観光財源(宿泊税等)を活用した施策の展開と適切なガバナンス	■	■	■	観光商工 企画財政 税務	○	○	○	○	○	○		○	○	○				○						
PJ 8-4 官民連携の促進とDMOの体制強化		■	■	観光商工	○									○										
PJ 8-5 行政、DMOの業務の適正化		■	■	観光商工	○									○										

## 第4章 アクションプログラムの推進

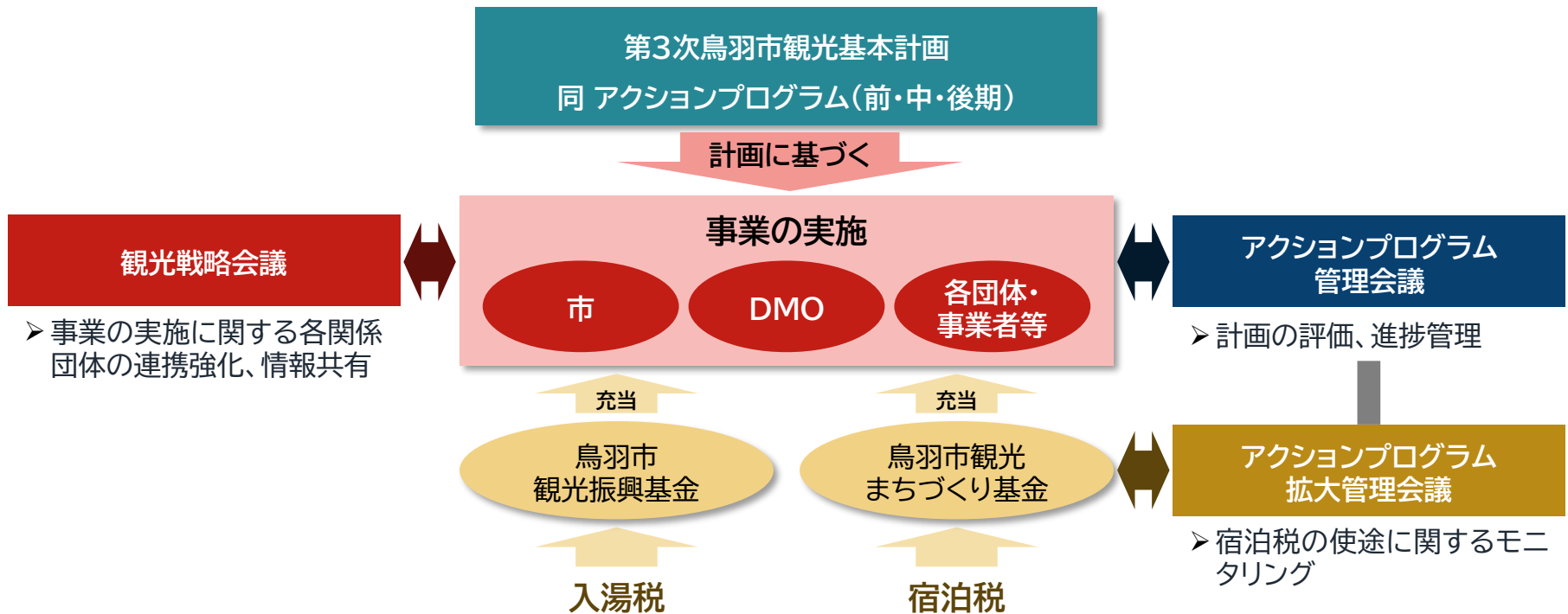
# 1. アクションプログラムの推進体制

## 【第3次観光基本計画における計画推進の考え方】

計画に基づき鳥羽市の観光まちづくりを推進するためには、市や地域DMOである鳥羽市観光協会、相差海女文化運営協議会をはじめ、各関係団体、事業者等が一丸となった官民連携体制を構築することが重要です。

事業の実施にあたっては、各関係団体の実務担当者、若手職員により構成される「観光戦略会議」を設置し、各関係団体の連携強化、情報共有を図ります。また、限りある人材や財源を効果的に配分していくため、市民や観光客の視点から優先して取り組むべき事項を整理して事業を推進する必要があります。

計画の進捗状況を適切にモニタリングするため、各関係団体の代表者や学識経験者により構成される「アクションプログラム管理会議」（以下、「AP管理会議」）において評価、進捗管理を行うとともに、新たに「アクションプログラム拡大管理会議」（以下、「AP拡大管理会議」）を設置し、宿泊税の使途に関するガバナンス体制を構築します。



## 2. アクションプログラムの実施・管理・評価の考え方

第3次観光基本計画ならびに前期APを着実に遂行するため、計画期間中の事業の実施、計画の評価、進捗管理にあたっては、次のページの流れで進めていきます。本計画は鳥羽市の観光に関わる関係者が一丸となってそれぞれの役割を果たし、鳥羽市の観光振興を実現するためのものであることから、実施・管理・評価のプロセスにおいても各関係団体が連携して実施することとします。

計画に基づく事業は、市および各団体が主体となり実施するとともに、「観光戦略会議」において、実施状況や役割分担のため協議を行います。

「AP管理会議」における計画の評価は毎年度実施し、前期APの最終年度となる2028年度に、各戦略の達成度を評価するとともに、目標値の達成状況の確認を行います。あわせて、宿泊税を充当した事業は「AP拡大管理会議」に報告し、モニタリングを行うとともに、翌年度に宿泊税を充当すべき事業について意見聴取を行います。

なお、次の中期APIは2028年度に作成予定ですが、それまでの計画の実施状況や社会情勢等をふまえ、必要に応じて実施・評価・管理の体制を見直すこととします。

実施者	参加メンバー(想定)	役割	時期
市・DMO・各団体・事業者等	—	事業の実施	随時
観光戦略会議	各団体・事業者の主に実務担当者	事業の実施に関する各関係団体の連携、情報共有、役割分担	毎年度
AP管理会議	学識経験者 各団体代表者	計画の進捗状況の管理	毎年度
		目標値の達成度の確認	2028年度
		各戦略・PJの達成度の評価	2028年度
AP拡大管理会議	学識経験者 各団体代表者 宿泊施設関係者 有識者	宿泊税の用途に関するモニタリング	毎年度
		次年度宿泊税充当事業に関する協議	毎年度

## 2. アクションプログラムの実施・管理・評価の考え方

### ● 事業の実施、計画の評価、進捗管理の流れ

